

一 般 質 問 通 告 書

令和3年8月23日

前
午9時50分 受付
後

下記のとおり質問いたしますから通告いたします。

令和3年8月23日

湖西市議会議長 馬場 衛 様

湖西市議会議員 加藤弘己 (印)
(署名又は記名押印)



質問方式 (○を付ける)	一問一答・一括の質問答弁
番号	主 題
1	国土強靱化推進の取組について
2	
3	
4	
5	

※ 質問の要旨は別紙参照

番号	主 題
1	国土強靱化推進の取組について
質 問 の 要 旨	
<p>(質問しようとする背景や経緯)</p> <p>近年の日本では、毎年のように深刻な豪雨災害が繰り返されています。「50年に一度」「100年に一度」と形容されるような気象災害に、しばしば見舞われる事態となっています。温暖化による異常気象が背景ともいわれ、従来の想定を上回る事態頻発への対応力の整備は、大きな課題となっています。また、東海、東南海、南海の三連動地震が発生する可能性が話題となっています。</p> <p>併せて2020年に入ってから、拡大する新型コロナウイルス感染症への対策との両立という難しい問題が課せられることになりました。</p> <p>湖西市国土強靱化地域計画では、国や静岡県への支援策を最大限に活用し、防災・減災と地域成長を両立させる国土強靱化の趣旨を踏まえ、次世代を担う若者たちが将来に明るい希望を持てる国土を創造する施策を積極的に推進するため、発災後の様々なリスクを想定し4つの基本目標の達成と8つの「事前に備えるべき目標」、またその妨げとなる31の「起きてはならない最悪の事態(リスクシナリオ)」を設定しています。そのリスクシナリオの実績、目標、達成時期等についてお伺いします。</p>	
<p>(質問の目的)</p> <p>第6次湖西市総合計画で掲げています「安心して暮らすことができるまち」への実現を目指すため。</p>	
<p>(質問事項)</p> <p>1. ハザードマップの作成及び配布について</p> <p>令和3年3月に策定された湖西市国土強靱化地域計画のリスクシナリオ(1-4)で「豪雨や大地震に伴う土砂災害による多数の死者数の発生」を掲げ、ハザードマップの配布が計画されています。現在のハザードマップは、平成26年3月に作成し配布していると記憶しております。新たに指定された土砂災害警戒区域や避難場所を盛り込んだ新たなハザードマップは令和4年度に作成予定と聞いておりますが配布</p>	

時期、配布方法をお伺いします。

2. 土砂災害警戒区域の指定及び調査

災害リスクの軽減を図るには、土砂災害等の発生の恐れのある区域の指定及び平時からの点検が重要と考えます。土砂災害警戒区域の指定の流れは。また、土砂災害警戒区域の点検状況をお伺いします。

3. ため池の損壊

地震や豪雨によるため池の損壊・機能不全による二次災害の対策について調査、検討がなされているかお伺います。

4. 太陽光発電による地域環境のかく乱

本市においては中山間地域の丘陵地の森林を伐採し太陽光発電設備が設置されている箇所があります。傾斜地や、保水機能がある樹々を伐採して太陽光パネルを敷設すると大雨により大量の出水が発生し、土砂災害を引き起こす危険性があります。建築物へ設置するものを除くすべての太陽光発電設備について届け出を義務化する考えはないかお伺いします。

5. 太陽光発電の実施にあたっては土地所有者や地権者としての責任の所在を明確にする。計画が変更した場合は速やかに届ける。

以上を強化し事業者が法令をクリアし整備を進めることを規制する考えはないかお伺いします。

6. 災害復興を支える人材確保

災害の発生、復旧、復興において、地域を最も理解した市民自らの防災活動（自助・共助）が効果を発揮するものと考えます。人材育成等、地域の防災力向上に向け、自主防災活動に対してどのように支援しているかお伺いします。

7. 避難生活、復旧、復興において、女性の視点・多様性での視点を生かした取組みが重要と考えるが、考えをお伺いします。

8. 国土強靱化地域計画リスクシナリオ（8-2）「復興を支える人材等の不足」を掲げ、地域防災指導員の充足を指標としております。地域防災指導員の人数、女性の比率をお伺いします。 以上

※ 質問の要旨は具体的に記入すること

一 般 質 問 通 告 書

令和3年 8月 23日

前

午後 10 分 受付
後

下記のとおり質問いたしますから通告いたします。

令和3年 8 月 23 日

湖西市議会議長 馬場 衛 様

湖西市議会議員 神谷里枝



質問方式 (○を付ける)	一問一答 ・ 一括の質問答弁
番号	主 題
1	放課後児童健全育成事業について
2	
3	
4	
5	

※ 質問の要旨は別紙参照



番号	主 題
1	放課後児童健全育成事業について
質 問 の 要 旨	
<p>(質問しようとする背景や経緯)</p> <p>少子高齢化や人口減少は大きな課題であり、対策として「職住近接」、昼夜間人口差の解消を目指し、湖西市に住んで働きたいと思える魅力ある市の実現を目指す4本柱の一つに「子育て・教育の充実」が提唱されております。子ども子育て支援事業は平成27年度から施行された支援法の下で、一人ひとりの子どもが健やかに成長する事ができる社会の実現に寄与する事を目的とし、「子どもの最善の福祉」が実現される社会を目指す必要があります。湖西市でも子どもの健やかな育ちと保護者の子育てを社会全体で支援する環境を整備するため「第1期湖西市子ども・子育て支援事業計画」に引き続き、令和6年度までの子育て支援事業の提供や実施などを盛り込んだ「第2期湖西市子ども・子育て支援事業計画」を策定し、家庭や地域、関係者・関係団体と連携しながら社会全体で支援するとされています。</p> <p>(質問の目的)</p> <p>共働き・一人親家庭の増加のもと、子どもたちの生活や育つ環境が厳しくなっている中で、放課後及び学校休業日に安全に安心して過ごすことのできる「毎日の生活の場」の環境改善を図り、放課後児童クラブに子どもが自ら進んで通い続け充実した生活が送られるようにするため。</p> <p>(質問事項)</p> <p>近年、子どもを取り巻く環境が大きく変化しており、未来を担う子どもたちを健やかに育むためには学校、家庭及び地域住民などがそれぞれの役割と責任を自覚しつつ、地域全体で子育て支援に取り組む体制づくりを実現する必要があります。</p> <p>1. 学校の余裕教室を活用して放課後児童クラブを開催していますが、提供された教室以外は、校舎内のトイレや廊下の使用が認められないクラブもあります。市民の財産である学校施設の管理は学校側に</p>	

委ねられておりますが、自校の児童が放課後の生活の場として利用するにあたり、極端な制限を設けなければならない理由ならびに打開策を伺います。

2. 令和2年度の事務事業評価によると支援員・補助員の少数化等により国・県の基準を下回る金額で実施しており、効率的運営を行っているところがあるが、支援員や補助員の待遇、また確保に問題は無いのか伺います。
3. 発達障害児などを受け入れているクラブへの支援体制を伺います。
4. 岡崎小学校放課後児童クラブの整備が検討されているようですが、今後の整備方針を伺います。
5. 放課後子ども教室との一体型また連携型による実施を、放課後子どもプラン推進事業運営委員会などで検証し、事業の充実に努めるとあるが進捗状況を伺います。

※ 質問の要旨は具体的に記入すること

一 般 質 問 通 告 書

令和3年 8月 23日

前

午 2時 26分 受付
後

下記のとおり質問いたしますから通告いたします。

令和3年8月23日

湖西市議会議長 馬場 衛 様

湖西市議会議員 佐原佳美

(署名又は記名押印)



質問方式 (○を付ける)		一問一答・一括の質問答弁
番号	主 題	
1	産前・産後ケア事業の拡充について	
2		
3		
4		
5		

※ 質問の要旨は別紙参照

番号	主 題
1	産前・産後ケア事業の拡充について
質 問 の 要 旨	
<p>(質問しようとする背景や経緯)</p> <p>私は、平成 24 年 9 月定例会一般質問の「湖西病院の閉鎖病棟を活用して院内助産所を開設できないか」を皮切りに、平成 26 年 3 月には「産後ケア事業として出産後の母子のショートステイ（泊まり）デイサービス（日帰りケア）を湖西病院の閉鎖病棟で実施できないか」、平成 27 年 9 月には「子育て世代包括支援センター（日本版ネウボラ）開設について」（「ネウボラ」とはフィンランド語で「助言の場」という母子支援拠点）、平成 28 年 6 月には前年実施すると答弁を頂いた「こさい版ネウボラの運用状況について」、令和元年 9 月にも「産後ケア事業」を主題とし、妊娠、出産から子育てを伴走型で支援する拠点や体制づくりについて一般質問を繰り返してきました。</p> <p>その結果、産後 2 カ月前後に実施されていた保健師や助産師による「赤ちゃん訪問」が、希望者には 1 カ月前後で実施されるように改善され、平成 26 年 5 月よりは、毎月第 4 火曜日に湖西病院健診センターで助産師さんによる産後 1 年未満の母子に育児相談・指導をする「産後ケア」が開始されました。</p> <p>更に、平成 31 年 4 月からは、出産した医療機関等で実施する産後ケア（宿泊型、日帰りデイサービス型）を利用したい産後 1 年未満の母子に市長の承認で利用料の一部を助成する事業が開始されました。</p> <p>そして、令和 2 年 12 月定例会の市長所信表明で「浜松市内など他の医療機関等からの助産師の派遣により分娩は機能の充実した医療機関で行いながら、分娩前後の妊産婦検診を湖西病院で行う」と述べられたので、私が平成 24 年 9 月一般質問で「しんしろ助産所」と聖隷三方原病院院内助産所の連携を例にあげた方法と類似していたため詳細説明を求めましたが、「コロナ禍にて協議は停止中」との答弁で、進まない出産から子育て支援の拠点整備を痛感していました。</p> <p>そんなところに、市の「赤ちゃん訪問」事業を受託しており、分娩以外を訪問で実施している市内 2 カ所の助産院の助産師さんお二人から「市内の妊産婦さんに産前・産後ケアを地元で受けられるように何とかしたい！」と相談され、産婦さん 4 人からのリアルな手記を読ませて頂きました。</p> <p>長文の中から、ほんの一部ですが紹介します。</p> <p>「入院中は、ボタンを押せばミルクがすぐ飲める状態で手元に。家に帰ってか</p>	

らは、授乳後ミルクだったと慌ててミルクづくり。ギャン泣きの子どもが寝てからは消毒。毎晩泣きながら過ごしました。母親がいないので里帰りもできず、主人も早朝から深夜まで仕事で一日中孤独で、大人と話したかった。何度も子どもの口を塞ごうと考えていました。一カ月経った時に市役所からの訪問があり、精神状態がチェックされ、その後、何度も訪問がありました。もっと早めの訪問を希望出来たら良かった。そんなシステムに憧れます。」

別の方は、「おっぱいに壁みたいな塊ができたので、助産院を開業した助産師さんに連絡したところ乳腺炎と分かりマッサージでしこりを取ってもらいました。高熱が出て、震えが止まらずフラフラで凄く辛かったです。4~5回乳腺炎になりその度に助けて貰いました。乳腺炎は本当に怖くて恐ろしいものです。高熱が出たら1人で運転して病院に行けないし、ましてや赤ちゃんを連れて行くなんで無理です。だから訪問で来てもらえて本当に良かったですが、お金がなかったら受けられません。湖西市でいくらか負担してもらえたらお母さん達の心が軽くなり気軽に頼めます。湖西市で子育てしていくお母さんを助けてください！」

また、他の方は「出産してから、もっと知っておくべきことが多かったなと思います。今は片手でスマホを見れば山ほど情報はありますがどれも平均、もしくは極端な答え。でも欲しいのは、今のこの子の状況への対応の答え。そんな時、地域で身近で相談できる専門的な人、場所があるだけでお守りのように安心できると思います。病院に相談するべきか市役所に電話して担当の人に代わって貰って・・・というのは煩わしくて。湖西市に産院はありません。ですが、湖西市での育児は始まり続いていきます。産後、手の届くところで何でもまとめて相談できる所があれば、悩めるお母さんが楽になり、母子の痛ましい事件が起きないと思います。「辛かったですね。一緒に頑張りましょう！」訪問して下さった助産師さんにそう言って頂き涙が溢れました。」等々です。

現在、助産師さん2人と始めた「産前・産後ケア」勉強会は、市内在住の助産師さんが6人に増え「もっと多くの妊娠中から子育て中のお母さん等の声を聴こう！」とアンケート調査をこの7月~8月にかけて実施しました。市内の保育園、認定こども園のご協力の下、お母さんを中心にWebアンケートに集約して326件の回答を頂きました。自由記述にはコロナ禍の孤独の記載が多数あり、手記をお寄せ下さった方々と同様でした。アンケート結果で得た市民の声を届け、産前・産後ケア事業を拡充したく質問致します。

(質問の目的)

妊娠期から子育て期の母子への支援体制を拡充・整備し、若者が住みたいと移住して来る湖西市を実現したい。

(質問事項)**【産後ケア利用状況】**

1. 平成31年4月から開始した産後ケア補助事業の状況は。
(委託医療機関数、利用実績等)
2. 湖西病院健診センターに開設した産後ケア相談が病院機関紙「きずな」や「広報こさい」の相談案内から消えて久しいが利用実績は。
3. 本市ウェブサイト上のうつ病・自殺防止サイト「こころの体温計」の中の赤ちゃんママモードへのアクセス数(セルフチェック数)の推移は。

【アンケートから見えてきたこと】

4. ・「産後ケアという言葉は知っていたが内容は知らない」全体では22%
(産後1年未満の方は23%)
 - ・「医療機関で実施している産前・産後ケア事業を知らない」全体で49%
(産後1年未満の方は36%) 「知らない」の合計は全体で71%(産後1年未満の方は59%)
 - ・「知っている」は全体で30%(産後1年未満の方は41%)でした。
明らかに周知不足とみるが、どの様に妊産婦さんに周知しているのか。
5. 「産後ケアサービスを利用したい(したかった)か」の設問で「ぜひ利用したい」26%、「場合によっては利用したい」64%で「利用したい」合計は90%であったが、今年3月、保健師に聞いた市の産後ケア補助事業の年間の利用者がとても少なかったが、その要因はどう捉えているか。
6. 「一番利用したいケアの種類は」は、「2時間未満の相談」39%、「家庭への訪問型」28%、「日帰りデイサービス」「宿泊型」の順番で、湖西市が実施していない「家庭への訪問型」のニーズが2番でした。
「妊娠中頼みなかったこと」の1番が「家事」47%、2番が「上の子の育児、預かり」が40%の結果に裏付けられているが、市の産後ケア補助事業に訪問

ヘルパー（産前産後ケアの視点で養成されたヘルパー）を追加する意向は如何か。

7. 「産後困っていること」の1番は「身体疲労、睡眠不足」が72%、2番が「上の子を含む育児」38%。「産後に頼みたかったこと」の1番は「産後の身体の整体」52%、2番が「赤ちゃんの預かり、家事」45%でした。産前産後に整体や妊産婦に適した配食サービス、家事援助等市内の多職種のサービスを利用できる「お祝いクーポン券」を発行して妊産婦を助ける取組を検討しては如何か。
8. 「妊娠中頼みたかったこと」の3番に「何でも相談」があり、市が委託している産後ケア実施医療機関では、産婦さんもオンライン相談への申込みが多いようです。オンライン相談事業に補助金を活用して実施している近隣市もあるように、当市での実施も検討しては如何か。
9. 市の産後ケア補助事業の委託先を医療機関だけでなく市内の助産院も加え、身近な地元や訪問型で産後ケアを受けたいという市民ニーズに応えては如何か。（アンケート配布にご協力頂いた保育園などから園での助産師による定例育児相談や「困った時の駆け込み寺」の希望が寄せられた）
10. 市長所信表明の「浜松市内など他の医療機関等からの助産師の派遣により分娩は機能の充実した医療機関で行いながら、分娩前後の妊産婦検診を湖西病院で行う」の協議を進めて頂き、その連携協定に検診、分娩だけでなく「産前産後ケア事業も含む」内容にする考えは如何か。

※ 質問の要旨は具体的に記入すること

一 般 質 問 通 告 書

令和3年 8月 24日

前
午 9 時 25 分 受 付
後

下記のとおり質問いたしますから通告いたします。

令和3年 8月 24日

湖西市議会議長 馬場 衛 様

湖西市議会議員 瀧本 幸夫

(署名又は記名押印)

質問方式 (○を付ける)	<input checked="" type="radio"/> 一問一答 ・ 一括の質問答弁
番号	主 題
1	第2次湖西市教育振興基本計画について
2	
3	
4	
5	

※ 質問の要旨は別紙参照

番号	主 題
1	第 2 次湖西市教育振興基本計画について
質 問 の 要 旨	
<p>(質問しようとする背景や経緯)</p> <p>第 2 次湖西市教育振興基本計画にも記載のあるとおり、少子高齢化・人口減少社会が進み、技術革新やグローバル化は急速に変化し続けています。既に学校教育においては、1 人 1 台のタブレット端末を導入するなど、急速な変化に対応した教育施策が展開されていますが、今後もより一層時代に対応した教育行政の推進が必要であると考えます。</p> <p>このような中で、本計画の基本理念である「未来の湖西を創る“ひと”づくり」を目指し、21 世紀スキルとしての「自ら学ぶ力」すなわち、主体的な学び・自立する心・創造する力を育み、健やかな成長を後押ししていく教育をどのように進めていくか、教育委員会の考えを伺う。</p> <p>(質問の目的)</p> <p>本計画に基づき実施される幼児・学校教育における具体的な施策内容と期待される効果を確認する。</p> <p>(質問事項)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 方針 3 に「時代に対応した教育行政の推進」とあるが、教育委員会としてどのように推進し、施策に反映していくのか。 2. 幼児教育における子どもの主体的活動を支援するための主な具体策及び期待される効果は。 3. 「語らい読書」について、これまでの実績と今後の展開について伺う。 4. 方針 11 の「一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援」の中で「湖西市チャレンジ教室」は、どのように活用されているのか。 5. 方針 13 に「地域とともに歩む学校づくりの推進」とあるが具体的にはどのように取り組んでいくのか。 	

※ 質問の要旨は具体的に記入すること